



長崎大学は「長崎に根づく伝統的文化を継承しつつ、豊かな心を育み、地球の平和を支える科学を創造することによって、社会の調和的発展に貢献する」という理念を持ちます。これは持続可能な開発目標(SDGs)の目指す所で言い換えると、平和の町・長崎から紛争を抑止するために、グローバリズムの弊害を克服し、経済・社会・環境の調和した未来社会を目指すことに他なりません。戦争や紛争の要因の一つは、種々の差別、不平等や格差にあり、現在これを進めるのはグローバリズムの弊害による一極集中・集約化といえます。また近年は気候変動に伴い甚大化する自然災害によって、都市から離れた地方や弱者がより取り残され、社会を不安定化にしていくことが懸念されます。

長崎は、原爆によって全てを失い人々の暮らしを再構築した経験を持ち、平和を強く願う町です。同時に長崎は入り組んだ地形・日本一多くの島を抱えていること、その中で高齢化・少子化がともに進むことから、取り残されやすい人が数多い地域でもあります。21世紀にあって平和に資する大学として、長崎大学はSDGsの中でも特にリスクに対する備え、回復力(レジリエンス)を強化し(核兵器・放射線災害・感染症)、長崎における取組から誰一人取り残さないことを(=格差を広げる不安定な社会構造を作らない)希求し、編み出した課題解決を世界に発信していきます。

日本における課題先進地域である島での取組み

世界に取り残される人を生むリスクへの取組み

